

二学期始業式

37 日間の夏休みが終わりました。あなたたちの夏休みはどうだったでしょうか？楽しい思い出がたくさん作れましたか？

さて、本日から 2 学期がスタートします。では、2 学期は「どういう時」なのでしょう？

まず、1, 2 年生。

昨年私は、「一学期が上に伸びる時だったのに対して、二学期は横に広がる時だよ」と言いました。一学期の部活動で、あなた達は 1 点でも多く、0.1 秒でも速く、と絶えず上に向かって努力していたと思います。なぜなら『公式戦』が 7 月だからです。目の前に「公式戦」が迫っている時「少しでも上に」と言うのは当然です。今年のサッカーワールドカップ予選リーグのポーランド戦で、日本チームが 20 分間、ボール回しをして攻めなかった事がありました。私は「4 年に一度のワールドカップ。せっかく代表になったのだから、どうしても決勝トーナメントに行きたい」という選手や監督の気持ちの現れではなかったかと思います。この作戦が良かったのか悪かったのかはサッカーが素人の私はコメントを避けたいと思いますが、あなた達の「一年に一度、全国大会までつながる夏の公式戦で、少しでも上の大会に行きたい」と言う気持ちは全く日本代表チームと変わらないと思います。

今、部活動の公式戦まで 1 年、あるいは 2 年、そして、高校入試まで 1 年半、あるいは 2 年半の時間があるあなたたち 1, 2 年生は、二学期、部活の試合やテストの 1 点にこだわる必要は無いのです。私は水泳部、陸上部の顧問をしていた時、二学期にフォームの改造をした、バスケ部の顧問をしていた時、マークする相手を変えるスイッチを禁止したといました。生徒には「タイムが多少落ちても新しいフォームを確実に身につけなさい」「何度抜かれても、自分で最後まで追いかけてなさい」と言いました。それが次の年の伸びに繋がるからです。学習も「とにかく正解を覚えよう。正解を覚えれば点が取れる」という勉強ではなく「なぜそうなるのか納得できるまで自分で考えてみよう」と言う学習をするので

す。そうすることによって来年、学年が上がった時に見違えるように成長したあなた達になる事ができます。「勝利に結びつかない努力はある。しかし無駄な努力はない。」「正解につながらない発表はある。しかし無駄な発表は無い。」をもう一度あなた達に言うておきます。

3年生。

部活を引退し、二学期はいよいよ「進路決定」の時期です。進路決定と言うと「受験勉強」とすぐ頭に浮かびますが、昨年、現在高1の先輩達に言ったように「みんなが共通して同じ事をやるのは、来年3月までの半年で最後だと言う自覚を持ちなさい」ということです。あなたたちは菊西中を卒業した後、普通高校や商業、工業、農業の実業高校、また、社会に出て職業人になる、あるいは、専門学校で資格を取るという人もいます。そして普通高校でも、選択教科で学ぶ内容が変わりますし、大学受験を目指す進学校といえども2年生から数学と理科の授業がないコースを選択することも出来るのです。

あなた達160人が同じ内容を同じ教室で学ぶのは、これが最後なのです。受験生のあなた達にとって、テストで点数を取ることは切実な問題だと思いますが、「進路学習」は「自分探し」です。

あなた達は「第一志望」「第二志望」という現在の進路希望からこの2学期に『受験校』や『進路先』を決定することになります。これが「自分探し」です。自分を見つけるためには、どの教科の授業にも全力で取り組む必要が有ります。「自分には向いていない」と思っている教科の学習から「自分が思ってもいなかった一面を発見」することもあります。二学期は「自分探し」の最終コーナです。ですから授業は得意・不得意、受験科目である無しに関わらず、9教科すべてに全力で取り組むのです。私の中学校3年の時です。私にとって一番の苦手教科は体育でした。中学生の私が体育で他の人よりも上手だったのは、中体連小笠大会で400mと1500m自由形で大会新記録を出した水泳と、1500m走を4分40秒で走った長距離走だけです。それでも、鉄棒もバスケットボールも体育の授業を『一生懸命』やりました。当時の体育の先生はそんな私に5段階で『体育4』の成績を付けてくれました。そしてそれが教員になってから、経験の無いバスケット部の顧問を命じられても、監督ができた理由だと

思っています。中学生の頃、自分が将来バスケットの監督をやるなんて想像もしていませんでした。しかし苦手教科でも一生懸命やったことが生きたのです。あなた達にも「結果に結びつかない努力はある。しかし、無駄な努力はない。」をもう一度言っておきます。そして、12月に終業式を行う時には、あなた達一人ひとりにとって最高の進路先を選択してくれたいと心から願っています。

最後に全員に言います。これも昨年から言っていることですが、「試合は個人戦、でも、練習は団体戦」「受験は個人戦、でも、受験勉強は団体戦」です。自分が最高に伸びられるチームやクラスをあなた達と顧問の先生、担任の先生とで作り上げていくことが大切です。一学期の終業式の時、男子テニス部が試合に負けた後の森下先生の言葉を紹介しました。先生達も最高のクラス、最高の授業、そして、最高のチームを作ろうという思いは、あなた達生徒とちっとも変わりません。

あなたたちが、学級づくり、授業づくり、チームづくりと言う名の団体戦を勝ち抜いて、最高に充実した二学期を送ってくれる事を祈って、始業式の式辞といたします。

ここで、新しい先生を紹介します。

山崎 創（はじめ）先生です。山崎先生は静岡市から通勤されます。1年部に所属し、各学年の社会科の授業にティームティーチングで入ります。ジグソー学習をする時など、お世話になると思います。専門委員会は広報委員会、部活動は女子バレー部の副顧問をお願いします。